

## (1) クラブの成長に合わせた独自のシステム開発

### ●出欠・入会管理と会費納入の確認が同時に簡単にできる！

私たち、NPO 法人高津総合型スポーツクラブSELF（以下、SELF）は、神奈川県川崎市高津区の高津中学校区を拠点に活動しています。約1800名（2009年5月現在）を越える会員の管理にITを活用しています。

ITを活用していると言っても、そんなに難しいものではありません。

クラブハウスに専用のパソコンとバーコードリーダーを設置して、会員の皆さんにはそれぞれプラスチック製の会員カードを持ってもらうだけです。

クラブに来たら、受付にカードを出して、スポーツを楽しんでいる間に、スタッフがピコッピコッとカードのバーコードを読み込んで、出欠をパソコンに入力します。

出欠と同時に会費の納入状況を確認できるので、帰りに受付でカードを受け取って帰るときに、会費の納入がまだの人には、ひと声かけます。月ごとに新規入会がいくつあったか、会費収入は順調に集まっているか等が、ボタンひとつで簡単に確認できます。誰にでも使えるシンプルなところがお気に入りです。

### ●長蛇の列ができてしまう受付を何とかしたい

クラブを設立しようとしていた頃、会員管理システムの導入はまだ考えていませんでした。

設立總會のときに、会員の再登録を行ったところ、500名いた会員が200名まで減ってしまう出来事がありました。つまり、半分は”お化け”会員でしたが、本当にクラブに参加する200名が残った結果となりました。

当然、その人たちは、ほぼ毎日のように参加してくれました。この頃は”ノート”で会員の出欠や会費の納入状況を整理していました。受付は毎日のように長蛇の列ができ、とにかく時間がかかっていました。字が汚く、読めないこともありました。

会員種別のうちで、家族会員は、誰がお金を払うのか明確ではなく、入金状況がなかなかわからないといった課題が少しずつ出てきました。クラブの顔となる窓口対応をとにかくスムーズにしたい、何か考えなければならぬと感じ、会員管理にITを活用することを考えるようになったのです。

### ●お金はかかっても、状況に合わせた柔軟なソフト開発が重要

具体的に導入しようとしたときに、問題になるのは経費です。

SELFでは、クラブの関係者から業者（株式会社ワイズアンドテクノロジー）を紹介してもらうことができました。会員管理システムの制作費は約60万円（それ以外にPCとカード実費）でした。決して安くはあり

ません。

それでもよかったことは、民間のスイミングクラブが導入していたものをベースに応用し、何回も打ち合わせを行って、クラブの状況に合わせたソフト開発をしてもらえたことが大きいです。

業者も、クラブで働いているわけではないので、見えない部分は出てきます。スタッフから改善のリクエストが出るたびに、それに応じたシステムへと成長させてくれています。

### ●「お金の管理」のほか、稼働率、参加率等による分析もできる！

会員の管理にITを活用すると、お金の管理、出欠チェック、稼働率、参加率等、いろいろなことが幅広くできるようになりました。ノートでやっていたときは、仕事のボリュームが多い割には、計算は間違えるし、転記ミス、お金の入金情報トラブルがありました。

会員管理にITを活用した結果、クラブの何が変わったかは、正確な分析を行ったわけではありませんが、会員さんにはプラスチックの会員カードは好評です。データ管理しているため、紛失時の対応もスムーズですし、何より実感として、雰囲気クラブらしくなりました。

会員管理システムが定着した今になって考えてみると、「お金の管理」という視点では不可欠なものになっています。未収等の問題はもちろんあります。それよりも、経営的にクラブの会員規模から会費収入の現状をオンタイムで確認できることが大事です。ノートを見てやっていたら、1年かけても分析できません。今のクラブの規模を考えると、経営上必要不可欠です。

### ●これから導入する場合は、「導入の目的を明確に」

正直言って、導入時からそんなところまで考えていませんでした。システムを導入するときのクラブとしての要求は、出欠の把握、入金の把握（未払い）ぐらいでした。

IT活用に関しては、“何を目的にITを導入したいのか”を明確に持つべきだと考えます。今の時代、無料で手に入る会員管理ソフトもあるでしょう。状況によっては、エクセルでもできる。何のためにどんなことを実現させたくて会員管理のIT化を図るのが大切ですか。5万円のものがよいのか、100万円くらいのものが必要なのかは、クラブの規模や導入の目的によって異なります。

SELFの会員管理システムは、誰でも使えるようにしたい反面、アクセス制限はしたい、個人情報を持ちだしたくない、などいろいろな条件がありました。誰でも使える部分は出欠管理の部分、お金の管理は決められた人間だけにしています。会員管理システムと会計ソフトは別で動かしています。

税務署からの指導もあり、データから伝票を起こして、伝票から会計ソフトに入力しています。

### ●システムは生き物、クラブの成長に合わせて成長させる

会員管理に限らず、システムは生き物です。システムはつくって終わりではありません。

クラブやスタッフの成長と共に、その都度、システムに要求する内容・規模が変わってくるからです。

最初からパーフェクトなシステムである必要はありません。

SELFが、システム導入をするときに、要望として業者に伝えたのが、“スタッフの誰もが使えるシンプルなもの”ということです。今クラブに必要な機能だけを選択してシステムを製作してもらいました。

とんでもなく複雑なものにはならなかったことがよかったです。

クラブの成長に合わせて、成長させることが本当に大切なのです。

## ●“夢のネットワークツール”としての実現を

システムの導入は、経費の面でそう簡単なものではありません。小さな規模のクラブの場合、会員管理だけならノートとペンだけでも良いかもしれません。

しかし、会員管理システムを導入するメリットはあると考えます。

将来的に、会員管理システムだけではなくIT化によってHPの共有化や情報提供ということが、ネットワークツールとして力を発揮する時がくるでしょう。

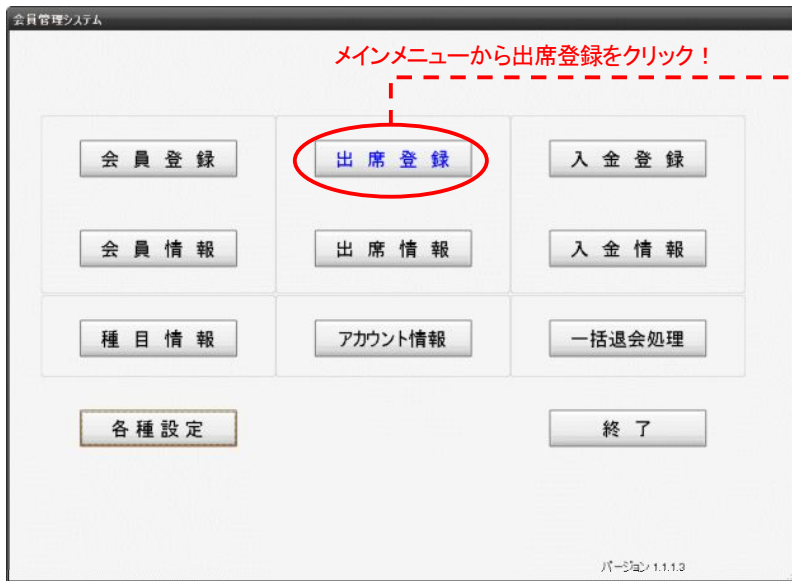
単独のクラブの問題として捉えるのではなく、全国単位・都道府県単位の総合型クラブネットワークに当てはめて考え、スケールメリットを生かした、“夢のネットワークツール”として実現をさせたいと思っています。

(菊地 正 NPO 法人高津総合型スポーツクラブSELF 副理事長／クラブマネジャー)

関連リンク：NPO 法人高津総合型スポーツクラブSELFHP <http://park20.wakwak.com/~self/>

# SELFの会員管理システム（例：出席登録）

## メインメニュー



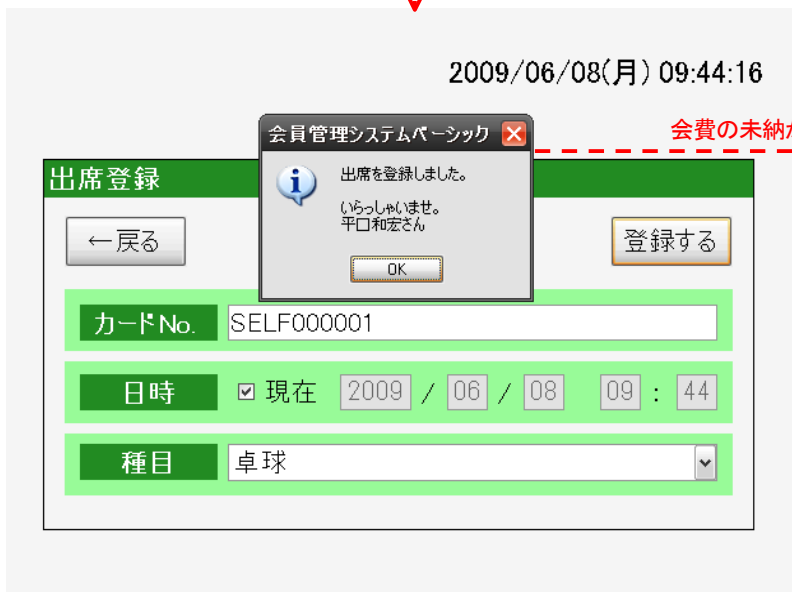
## 会員カード



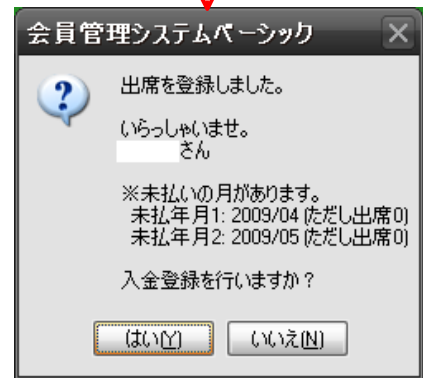
バーコードリーダーでカードを「ピコッ！」



誰でも簡単！出席登録があつという間に完了！



会費の未納がある場合はメッセージが出現！



## (参考1) 会員登録の画面



## (参考2) 入金登録の画面

